

【ビーズ製帯締め】

夏本番。暑さも一層増してきました。暑さ対策を万全にして過ごす日々が続いております。

今月の“イッピン”は「ビーズ製帯締め」をご紹介します。水色地に金色の模様が施されたその見た目は涼しげで、今の季節にぴったりの品です。

春子夫人は当時を振り返り、『主人は海軍次官のころ、次官としては素より大臣代理としていろいろの会合に出席しましたので、私もよく同伴しました。（中略）夜会に出るときは夜会服が主で、その仕立ては外国人、特にフランス人の手によるものが多かったと思います。主人が総理大臣になってからは和服が多くなりました。（中略）貞明皇后様から毎年お歳暮として西陣の織物を下賜されましたが、これは国産品を愛用せよとの思召しもあったことと拝察致します。』と語っています。（「斎藤實夫妻を偲ぶ、私の生い立ち」より）

明治 31（1898）年、海軍大臣となった山本権兵衛は實を海軍次官に抜擢。その後山本の跡を継いで約 8 年間海軍大臣を務めます。そして、昭和 7（1932）年五・一五事件によって倒れた犬養毅首相の後継として第 30 第内閣総理大臣に就任。實は国の要として、国内の安定を図り諸国との和親に努めます。春子もまた日本を代表するファーストレディとして、夫を支える立場となりました。春子の着用する衣服も変遷していったのがわかります。残念ながら実際にこの帯締めを着用されたお姿は残されておきませんが、この他にも多数の装飾品が残されており、今後ご紹介していきたいと思います。



明治 33（1900）年 洋装姿の春子夫人（27 歳）
海軍次官時代に大臣代理として
様々な会合に出席した實に同伴した



涼しげなビーズ製帯締め



海外の方との親善外交の様子